

タイトル	世界遺産登録は地域再生の妙薬となるのか		
所属	南山大学人文学部人類文化学科藤川ゼミ	氏名	近藤真生

世界遺産に登録とされたと聞いたときに多くの人が地域が盛り上がった、観光客がたくさん来て地域経済が潤うといった良いことをイメージすると思う。しかし、世界遺産認定をされた地域の人の生活を見たときに観光客が増えて生活しにくくなることもあるのではないかと思い今回の問いを考えてみたいと思った。

そこで以下には、世界遺産に登録された際に考えられるメリットとデメリットや問いに対する論点を挙げる。

メリット

- ・知名度の上昇、観光客の増加、経済が潤う
- 世界遺産は世界規模のものなので登録されるとその遺産には莫大な宣伝効果が予測される
- 世界遺産に登録された際の最大のメリットともいわれている
- ・インフラが整う
- 観光地としての利用価値が大きくなったことで道路や歩道の整備といった交通面での発達が見込め、住民の暮らしが便利になる
- ・人口が増える
- 世界遺産登録を契機にその地域に移住しようとする人や元々住んでいた人が戻ってくるまたは他の地域に人口が流出することを防ぐことができるなど地域の活性化につながっていく
- ・地域の人々の自信や誇りにつながる



デメリット

- ・オーバーツーリズムの被害
- 知名度が上がり観光客が増えることで遺産への物理的・環境的被害や騒音、渋滞など地域住民へのストレスなど
- 実際に観光客が一般の人の家屋に入ってきて道を尋ねられたり、通勤・通学のバスや電車が観光客が多く乗れなくなってしまふといった例もある
- ・住民への規制
- 世界遺産に登録されるとその登録範囲に入っている地域の住民には景観や家屋についての規制がかけられるのであるが例えば台風が来て家屋のどこかが壊れてしまい直したいとなったときには直したい場所を報告しなければならずその許可が下りなければ修復できないことがある
- ・一過性の可能性
- ブームが一時的なものであって持続的な利益が見込めないことも考えられる
- 富岡製糸場の例を挙げると世界遺産に登録された年やその翌年はこれまでの約2倍の観光客が来て大いに盛り上がったのであるが3、4年後にはその熱が冷めてそこからどんどん右肩下がりになってしまうといったことがあるため登録されたからと言って一概に地域の景気が良くなっていくとは限らない
- 観光モデルの成功パターンと言われているのは長期滞在型の観光であり、そのためには体験、食事、宿泊などを通じて楽しんでもらう必要があるがその整備にも多額の費用がかかる
- ・地域のバランスが崩れる可能性
- 楽で収入が良い仕事に人が集まり、その地域に元々あったお店や施設が無くなって生活が不便になることがある
- ・ゼロドルツーリズムの流行
- 近年では、お金を使わずに観光をするゼロドルツーリズムが流行っている
- 白川郷では、年間約140万人以上の観光客が訪れるが平均滞在時間は40分ととても短い。また合掌造りの写真を撮って自販機で飲み物を買う程度の観光客が多くいるのに対してトイレ整備やごみ処理などのインバウンド対応は地域にとっての負担が大きく費用に見合った収入になるかが懸念されている
- イタリアのヴェネツィアやカリブ海の大型クルーズ船による観光もこれに該当するのであるがこれは食事や宿泊を船内で済ませツアーも関連会社が催行することからその地域に落ちるお金は決して多くない

論点

- ・地域再生の定義はどのようにしたらよいのか
- 経済が好転したらそれだけで地域再生と呼んでよいのか
- 持続可能な観光モデルになることか
- 住民の生活のクオリティも考えるべきか など
- ・ゼロドルツーリズムの流行によって単に観光客が増えたからと言ってそれが地域活性化を意味するものではないことへの配慮
- 観光客の量ではなく質を見なければならない

